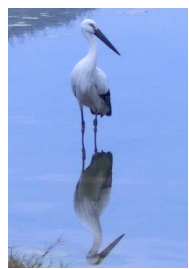


文庫あれこれ◆歩いてると、沈丁花のかすかな匂いがたどよい、通りすがりの家の白木蓮も蕾が膨らんでいます。3月に入って暖かな日が続いたかと思うとまた逆戻りの繰り返しです。◆確定申告も何とか済んで、昨日は古巣の勤務先での「子どもの本この1年を振り返って2016」に参加しました(愛子さまがお生まれになった日、第1回目を私が始めました)。絵本・フィクション・NF・YA。各ジャンルをその道の専門家がたどります。午前午後併せて5時間、疲れました。◆ここ数年、この会に行く、元勤務先の会長夫人が受付でニコニコ出迎えてくれます。立志伝中の女丈夫です。会長を支えて会社を大きくした人で、私の在勤中は煙たい人でしたが、いまは私を懐かしそうに出迎えてくれます。御年88歳にして筋金入り、ますます元気の様子、感嘆。1度ごちそうになったお料理の腕前も素晴らしい。見習いたい人生の先輩のひとりです。◆子どもの本は、この会と、別途町田で行われる広瀬さん(いつも文庫に新刊をたくさん寄付してくださる)の「年間おすすめ本の講座」を聞いたあとで、その中から選んで文庫に入れるのですが、今年は絵本もよみものも振るわなかったようです。逆にノンフィクションの分野は元気で、それでも来月あたりからまだ入っていない本を少しずつ入れます。◆3.11まだ不明の方々がいます。いじめに心痛めている子等がいます。歩き続ける活力を祈ります。◆週末になると、わが夫さんは突然、ひとり旅に出ます。右は、奄美大島で撮ったコウノトリ。泳いで、浜で拾った珊瑚を箸置きにと持ってきてくれました。◆留守の間、私は偶然、奄美の苦難の歴史とシマグチ、シマウタを聴く機会を得ました(口承文学学会)。奄美弁?の昔話、英語より聴きとれない!! ◆待ち遠しいこの頃ですが、幼稚園から小学校へ、小学校から中学へと、文庫でも巣立つ人たちがいます。新しい環境に早く慣れて、楽しく過ごしてほしいですね。◆沙羅の木の芽吹くのもすぐでしょう。(西村)



★開館日は通常は
第3日曜と前日の土曜です★

- ◆3月は通常18(土)、19(日)の両日
- ◆4月は通常15(土)、16(日)の両日
- ◆5月は変則第2土日を挟んで長めの開館
12日(金)～16日(火)まで
★若葉のころのおはなし会★
13日夕方→大きい人向け
14日午前→小さい人向け
ゲスト:平塚ミヨさん、大塚佳苗さん(語り)
&代田みち子さん(科学遊び)
- ◆6月は通常17(土)、18(日)の両日
- ◆7月は通常15(土)、16(日)の両日と
16日夕「第17回海の日のおはなし会」
(於:伊豆高原駅広場クスノキの下)
- 17日午前「第11回開館記念子どものための
おはなし会」(於:沙羅の樹文庫)
- ◆8月は通常第3土日を挟んで長めの開館
18日(金)～22日(火)まで

文庫の時間

土曜日は午後2時～5時、
日曜日は午前10時～午後3時

- ★毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。
午前10:30～11:00
★おはなし沙羅の勉強会★
毎月開館土曜日11:00～13:00
今は5月の若葉のころのおはなし会まで練習しています。
読みかぜの練習・本選の勉強にもどうぞ

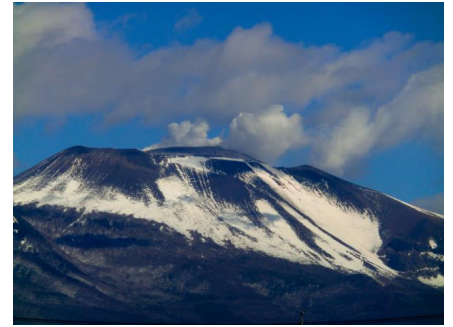
駐車について

駐車可能場所:文庫駐車場3台・サウスフィールドさん(駐車場が空いているとき)・グラナダさんの屋外
み時間(14:00～17:00)・文庫下2軒先左折行き止り
道路:上記がいっぱいの場合、スタッフに声をかけて下さい。(沙羅の樹文庫)

沙羅の樹文庫 0557-51-3737

<http://www.saranokibunko.com>

沙羅の樹文庫だより



浅間山 (17.2.25 by ひとし藤原夫 TN)

はるですよ
わらびの太郎が
目をさます。
わらびの次郎が
目をさます。
はるですよ。
はるですよ。

かえるの太郎が
かおあろう。
かえるの次郎が
かおあろう。
はるですよ。
はるですよ。

(よだじゅんいち・詩)

2017年3月に読んだ本についての感想

2017. 3.16 by 森林浴

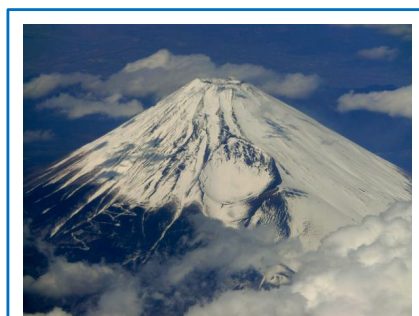
『幻影の明治 名もなき人びとの肖像』 渡辺京二著
平凡社刊 2014年3月第1版

渡辺京二の、雑誌などに別々に掲載された歴史の関する著作を集めた本。作家としては、第1章が山田風太郎、第2章が坂口安吾、そして第3章が 司馬遼太郎。この3人を選んでいるのがまず注目される。渡辺京二は基本が歴史家であり、すべてとにかく正確を期し、バランスを取って書いている。これは私が、彼が雑誌「選沢」に約11年間(月刊誌で、129回)も連載した「パテレンの世紀」を愛読していたので、まあ承知していたが。この中で一番面白かったのが、**司馬遼太郎の評価**。『読んでいて、与太ばかり飛ばして感じて、しらけてしまう。』と断じている。特に人気のある彼の本『坂の上の雲』については、内容が不正確が多く、『司馬のいうことは歴史的無知にもとづくナンセンスとしかいいようがあるまい。』と言い、『要するに、ここにいるのは張扇をもって机を打ちつつ声を張り上げる講釈師なのである。』と断罪している。その詳細・具体例はこの本を読んで欲しい。司馬の本は殆どがベストセラーで、人気抜群の作家だから、この評価は注目に値する。第4章は、明治時代の始まりに起こった「士族反乱」の事実解明、渡辺京二の地元の熊本が反乱の中心地なので、彼は特に関心を持っていたのだろう。第5章は「豪傑民権と博徒民権」、明治政府が成立したら、政権は薩長土肥、実質的には薩長の士族と一部の公卿であると判明して、これに怒った薩長以外の士族が反乱を起こした。いずれも明治維新を巡ってわが国で生じた事件・事象の深みに触れた歴史解明の物語。

付録は、渡辺京二のファンと自称する文芸評論家の新保裕司との話あいの記録。渡辺の諸著作のほか、橋川文三・大佛次郎など関する話題など。

『応仁の乱— 戦国時代を生んだ大乱—』 呉座勇一著
中公新書刊 2016年11月 第2版

この本は地味な表題にかかわらず、今、非常な人気が出てベストセラーの一つになったらしい。しかし出て来る人物・事件などが極めて多く且つ錯綜しており、読み通すには何か自分用の人物・事件などのメモ帳・関連表・図面でも作りながら読まない、頭が混乱しそう。



Mt. Fuji (奄美大島への機上から by TN)

山の写真ばかりで恐縮。あまり美しかったので。

伊豆高原だより 外伝

春休み「青春18切符」の旅

久しぶりに「青春18切符」を使って旅をしました。もう少し若い頃には、桜(根尾の薄墨桜)を見に行ったり、美術館(ねむの木学園)に行ったり、ずいぶん楽しんだものですが、ちょっと長い電車はそろそろ無理かしらと最近では敬遠していました。

夫に誘われて重い腰をあげたら、結構面白い旅になり、「また行きたい」と興味がわき、一カ所行ってみたい所があります。行きたいと思いつ、行っていない「星野富弘美術館」です。今回桐生を通った時に、ここから乗り換える「わたらせ渓谷鉄道」だったなと思い出したのです。時刻表を調べて、日帰りが無理なら、一泊もありかなと思っています。

今回の旅は東海道線・身延線・中央線・八高線・両毛線・水戸線・常磐線を乗り継いで一泊で一部八県を巡りました。富士山・赤城山・榛名山・筑波山・雪をかぶった南アルプスなどの山々。荒川・多摩川・利根川・江戸川・隅田川などの川。そして足利は母の里で小さい頃には夏休み、お正月を過ごした懐かしい町でしたので、感慨深いものがありました。最後は満開の水戸借楽園の梅でした。



甲府の藤とうやさんで

青春18切符は5枚で11850円です。今回二人で4枚使いました。車と違って長い時間乗っても脚は伸ばせるし、一日7~8000歩ほどは歩くので腰痛になることもありませんでした。まだまだ元気に「青春18」で楽しみたいー!!

17年3月に入った子どもの本

絵本

『ぐるぐるぐる』(内田麟太郎作 長野ヒデ子絵 金の星社) ID12341
 『ともだちなんかいない』(内田麟太郎文 喜湯本のづみ絵 小学館 2017) ID12345
 『きつねは、天のみち』(あまんみちこ作 松成真理子絵 童心社) ID12340
 『ゆきのなかのりんご』(フェリドウン・オラル文・絵 復刊ドットコム 2017) ID12346
 『パパがサーカスと行った』(エットガール・キャレット文 ルートゥー・モエダン絵 評論社) ID12347※request
 『ハーキナー谷へおりたきつね』(ジョン・バーニンガムさく 童話館出版) ID12352
 『おぼろ月のおさんぽ』(ウォルター・デ・ラ・メア詩 カロリーナ・ラバイ絵 岩崎書店 2017) ID12354
 『ふしぎなたね』(安野光雅作 童話屋) ID12357
 『こまったこぐま こまったこりす』(かこさとし作 白泉社 2017) ID12358

寄贈絵本 ありがとうございます。

『しょうぎのくにのだいぼうけん』(中倉彰子作 福山知沙絵 講談社 2017) ID12344※Yさん
 『真昼の夢』『夢にめざめる世界』(ロブ・ゴンサルヴェス作 金原瑞人訳 ほるぷ出版 2016) ID12342・ID12343 ※2冊Gさん

よみもの

『水の森の秘密』(岡田淳作 理論社 2017) ID12348
 『現代落語おもしろ七席』(斎藤洋作 森田みちよ絵 理論社) ID11811
 『骨董通りの幽霊省』(アレックス・シアラー著 竹書房 2017) ID12349
 『スピニー通りの秘密の絵』(L.M.フィッツジェラルド著 あすなる書房 2016) ID12350
 『銀のうでのオトター』(ハワード・パイル作画 渡辺茂男訳 童話館出版 2013) ID12353
 『7つの怖い夜ばなし』(シリアン・クロスほか著) ID12224

紙芝居

『新美南吉の世界一りんごの車・げたにばける』(新美南吉原作 岡野和絵と脚本 岡野和の紙芝居刊行会) ID12355
 『水仙月の四日』(宮沢賢治原作 岡野和絵と脚本 岡野和の紙芝居刊行会) ID12356

参考資料

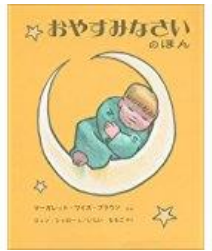
『小学校での読み聞かせガイドブック 改訂版』(湯沢朱美ほか編著 プランニング遊) ID12073
 『新版 折りびな』(田中サタ著 真田ふさえ画 福音館書店) ID12351
 『お話は土の城のテラスで一西アフリカ・トーゴの昔話集』(和田正平著 メディアランド 2016) ID12359

この本、もう読んだ? ②

絵本の巻

おやすみなさいのほん

私のおすすめ本 No.1。
 4人の年子を寝かせる魔法の絵本でした。魚も動物もみんな眠る夜。静かに、心地よい繰り返しの言葉は子守唄のよう。下の子から順々に眠りにつくのでした。魚が目を開けたまま眠るのを覚えたのもこの本。神様も自然に受け入れられた本。(ID2464)



からすたろう



からすたろう

卒業・入学の季節になると、必ず胸キュンとして思い出す本。朝、遠い山から雨の日も風の日も村の学校に通う少年ちび。みんなからのけ者にされて。でも6年の学芸会で……。卒業生に送ります。いい先生に巡りあいたいね。(ID1712、ID2934)



ID・中込学校 (国の重要文化財)

明治初期に建てられた佐久・下中込村の小学校(木造)すばらしいけどたくさん建築費がかかって、村は長い間、その返済に苦労したそうです。



Photo by TN

17年3月に入ったおとなの本

フィクション

『失われた地図』(恩田陸著 KADOKAWA 2017) ID17001
 『また、桜の国で』(須賀しのぶ著 祥伝社 2016) ID17002
 『ビニール傘』(岸政彦著 新潮社 2017) ID17006 ※request
 『終わりの日々』(高橋たか子著 みすず書房 2013) ID16999
 『過ぎ行く人たち』(高橋たか子著 女子パウロ会 2009) ID17000
 『突然ノックの音が』(エトガル・ケレット著 新潮社 2015) ID17003※request
 『あの素晴らしき七年』(エトガル・ケレット著 新潮社 2016) ID17004 ※request
 『ピリー・リンの永遠の一日』(ベン・ファウンテン著 新潮社 2017) ID17005※request
 『騎士団長殺し 第1部・第2部』(村上春樹著 新潮社 2017) ID17021~22
 『ついに、来た?』(群よう子著 幻冬舎 2017) ID17015

エッセイほか

『ポーニャの吐息』(内田洋子著 小学館 2017) ID17007※request
 『言葉の贈り物』(若松英輔著 亜紀書房 2016) ID17008※request
 『君棲む数』(中島信子/桜井信夫著 エスプレス・メディア出版) ID16880
 『弘業流 60歳からの手ぶら人生』(弘業憲史著 海電社 2016) ID17014

『アランの『幸福論』』(アラン著 ウェッジ 2016) ID17013※request
 『いのちの証言 ナチスの時代を生き延びたユダヤ人と日本人』(六車いちか著 晶文社 2017) ID17009
 『世界と僕のあいだに』(タナハシ・コーツ著 慶応義塾大学出版会 2017) ID17010
 『マティスとルオー友情の手紙』(アンリ・マティス著 みすず書房 2017) ID17011※request
 『北原白秋 言葉の魔術師』(今野真二著 岩波書店 2017) ID17017
 『きみがすき』(桜井信夫詩 長新太絵 ポプラ社) ID16878
 『なげいたココロ 古代歌謡変奏』(桜井信夫著 市川曜子画 編書房) ID16879
 『ねえ君、不思議だと思いませんか?』(池内了著 而立書房 2016) ID17012
 『臨終の七不思議 医師が見つめた、その瞬間の謎と心構え』(志賀貢著 三五館 2017) ID17016

新書

『尖閣諸島』(井上清著 第三書館) ID17023※Request

文庫

『犬とペンギンと私』(小川糸著 幻冬舎文庫 2017) ID17019
 『すばらしい日々』(吉本ばなな著 幻冬舎文庫 2017) ID17020

寄贈・単行本

『モンスターマザー—長野・丸子実業「いじめ自

殺事件」教師たちの闘い』(福田ますみ著 新潮社) ID16984
 『夜の淵をひとまわり』(真藤順文著 角川書店) ID16985
 『メガガン絶滅戦争』(波多野聖著 新潮社) ID16986
 『「臨死体験」が教えてくれた宇宙の仕組み』(木内鶴彦著 晋遊舎) ID16987
 『人生に美を添えて』(大村智著 生活の友社) ID16988
 『変身—メルトダウン後の世界』(堀潤著 角川書店) ID16989
 『兄は沖縄で死んだ』(加藤多一著 高文研 2015) ID16990
 『雉めく心』(谷川晃一著 せりか書房) ID16991
 『写真ドキュメント アウシュヴィッツ収容所』(クリーンピース出版会) ID16992

寄贈・文庫

『虎の尾を踏む(新・古着屋総兵衛 13)』(佐伯泰英著 新潮文庫 2016) ID16996
 『箏笛囃々(酔いどれ小藤次 8決定版)』(佐伯泰英著 文春文庫 2016) ID16998
 『呪詛の文(御広敷用人大奥記録 11)』(上田秀人著 光文社文庫) ID16997
 『終生ヒトのオスは飼わず』(米原万里著 文春文庫) ID16993
 『甘粕大尉』(角田房子著 中公文庫) ID16994
 『回轆木馬のデッド・ヒート』(村上春樹著 講談社文庫) ID16995